

poco

ZEFIRO

カトリック桂教会広報誌

Vol. 22

2024年 復活祭号

編集・発行

カトリック桂教会広報部

主のご復活 おめでとうございます



永遠のいのちを生きる時

担当司祭 一場 修

復活祭が始まりました。5月19日の「聖霊降臨の主日」まで、私たちは、主の復活を祝います。主イエスが、今も生きていて、すべてのいのちを愛しておられる、ということを祝います。そして、私たちも、復活のいのちをいただいていることを

思い起こし、感謝し、復活のいのちを生きている喜びを新たにします。復活のいのちは、永遠のいのちです。限りがない、いのちです。愛を生きるいのちだからです。愛には、限りがありません。

ルカ福音書10章にある「善いサマリア人のたとえ」で、主イエスは、永遠のいのち、限りのない愛について、説いておられます。

このたとえ話は、「何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」という問いに対する答えとして、語られています。自分の隣人を、限定してはいけません。日々出会う人の隣人とならない。隣人愛を、閉ざされたものとせず、開かれたものとしなさい。主は、そう教えておられます。永遠のいのちは、開かれた隣人愛を生きることなのです。

コロナ禍の経験により、私たちは、開かれた隣人愛を生きることの大切さを学びました。開かれた隣人愛は、私たちが、永遠に生き続ける唯一の道であることを学びました。しかし今、隣人愛は、閉ざされた愛になりつつあります。隣人愛が閉ざされる時、その外側にいる人は、憎むべき敵となります。どうなってもよい人となります。隣人愛は、閉ざされ始めると、その範囲がどんどん狭くなっていきます。閉ざされた隣人愛が行き着く先は、戦争であり、死です。

復活祭は、開かれた隣人愛を生きる時です。昨日は愛せなかつた隣人を、今日、愛する。そんな毎日を過ごす時です。隣人愛を、限りなく広げていく時です。開かれた隣人愛を生きること、復活のいのち、永遠のいのちの喜びを、分かち合っていきましょう。